

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年7月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872105002		
法人名	オークス福祉サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム オークスひたちなか	ユニット名	西
所在地	〒312-0001 茨城県ひたちなか市佐和787		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872105002&SCD=320&PCD=08
-----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年2月7日	評価確定日	平成24年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>木造平屋建てで、ゆったりとした造りになっている。 居室は全て南向きで日当たりがよい。 皆で過ごすフロアは、床暖房を設置し冬足元が暖かく過ごせるように配慮している。居室の窓は、掃き出しになっていていつでも外へ出て庭を散策したり作業出来るようになっている。庭には、遊歩道を設け車椅子の利用者もいつでも四季を感じながら散歩ができる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は静かな自然に恵まれた場所に立地し、木造平屋建てのゆったりとした造りとなっている。 居室はすべて南向きで日当たりが良く、開口部が掃き出し窓になっているため自由に庭に出られる。 日中利用者が過ごす共用空間は、床暖房を設置して冬は足元が温かく、ブラインドを和紙製にして柔らかな日差しが入るようにするとともに、夏はアサガオなどのグリーンカーテンを作り、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。 中庭の木製の広いデッキに居間兼食堂から自由に出入りができ、スロープを設けて車いすに乗ったまま庭に出られる。 庭には自家菜園を作るほか車いすで散歩ができるように遊歩道を整備して季節毎に楽しめる木々や草花を植え、利用者が季節を感じながら外気浴を楽しめるよう工夫している。 利用者は希望により、職員と一緒に近くのスーパーや薬局へ買い物に出かけたり、喫茶店や軽食店へ立ち寄りたりと日常生活を楽しんでおり、家族等の協力を得て墓参りや理・美容院に出かけている。 管理者と職員は理念の実践のために、毎月、より具体的な目標を立て共有しながら支援につなげるとともに、利用者の家族等や関係者に送る年賀状に理念を記して事業所の取り組みを伝えている。 管理者は認知症に対する豊かな知見と経験を活かし、利用者やその家族等ばかりではなく、悩みを抱えて訪れる人たちの相談に応じている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「自分が受けたいと思うサービスの提供、住み慣れた地域で自分が住みたいと思える」環境作りを目指し、管理者と職員は毎月、より具体的に今月の目標として掲げることで実践につながるよう努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、玄関や事務室などに掲示している。管理者と職員は理念の実践のために、毎月、より具体的な目標を立て共有しながら実践につなげるとともに、利用者の家族等や関係者に送る年賀状に理念を記して事業所の取り組みを伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入している。隣接する障害者施設の夏祭りや収穫祭・運動会を通して利用者やそのご家族・地域の方々と交流している。近隣の中学生の体験学習を受け入れ交流を持っている。	自治会に加入して職員が地域の消防訓練に参加したり地域の情報を得ている。利用者は隣接する同一法人の障害者施設の夏祭りや収穫祭などの行事に参加し、近隣住民と交流している。事業所の行事にオカリナや手品、琴、カラオケなどのボランティアが参加している。近隣にある中学校の職場体験を受け入れている。東日本大震災の時には近隣住民から水や食料の支援を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入所相談を通して認知症の人の理解や支援の方法を伝えたり、相談内容により医療機関・地域包括支援センターへの紹介を行なっている。認知症サポート相談員や認知症ケア専門士がいるのでその活動内容を運営推進会議等で伝える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎月の業務報告・入居状況を通して利用者の状況やサービスの実態を報告し話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、管理者等で2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の実情や活動報告をするとともに運営上の問題や外部評価の結果等を報告し話し合っている。看取り介護への取り組みや核家族化により家族等と連携が取りにくいなどの事業所の悩みを委員に知ってもらい、事業所への理解と協力が得られるように話し合っ、利用者により良い支援ができるよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・二ヶ月に一度の運営推進会議を活用し、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えながら協力関係を築いている。毎月入居状況・空き状況を報告し、市からの入居相談もある。	地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に出席している。 管理者は日頃から市担当者に事業所の実情やサービスの取組みについて相談をしたり、市担当者から利用相談を受けるなど、協力関係を築くように取り組んでいる。 地域包括支援センター主催の市西部地区のグループホーム懇談会に参加して市担当者や他事業所と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全体会議の中で身体拘束についての話し合いを持ちながら「しないケア」に取り組んでいるが、歩行にふらつきがあり付き添い歩行が必要な利用者は、家族から了解を得た範囲に留め、緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討記録を付けている。	身体拘束をしないケアに関する勉強会を実施して全職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。 ベッドからの立ち上がり時に転倒の恐れがある利用者には対応方法を工夫して身体拘束をしない支援に取り組んでいる。 利用者の安全のため、家族等の同意を得て玄関を施錠しているが、全居室の開口部が掃き出し窓になっているので部屋から中庭に自由に入出りができ、利用者は抑圧感のない暮らしをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修で学んだことや資料等で職員と話し合う場を設けている。日々のケアの中でも虐待の事例はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・県の指導研修・実践者研修・ケアマネ研修等で学ぶ機会を得ている。職員は月一回行う勉強会を通して、利用者家族から相談があった時も活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約・解約・改定等内容をご家族の目前で読みながら説明している。質問や疑問点には不安のないよう十分に時間をかけて説明している。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会記録カードに意見・要望欄を設け、どなたでも記入して頂けるようにしている。 ・わかり易い場所に意見箱を設置してる。 ・運営推進会議で利用者・家族代表の方の要望を伺っている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者や家族等が運営推進会議に出席し話し合いに参加している。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族等の来訪時の面会記録カードに意見要望欄を作り意見等を表せる機会を設け、出た意見等は些細なことでもすぐに運営に反映させている。 市の介護相談員の受け入れや無記名のアンケートを実施するまでには至っていない。	家族等が意見や要望を表わし難いことに配慮して、市の介護相談員の受け入れや無記名のアンケートを実施することを提案する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の全体会議やミーティングで意見交換し、ケアの見直し、業務改善につなげている	管理者は月1回の全体会議やユニット毎のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けるほか、日頃から職員とコミュニケーションを図り些細なことでも気軽に言える雰囲気づくりに努めている。 勤務体制や利用者の入居及び支援方法など、職員から出た意見や提案はその都度話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個人面談やアンケートを行い、職員の心身の状況を把握し、勤務体制に配慮している。担当業務、担当ユニット等職員の力が発揮でき、やりがいがあるように配慮している。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修案内を掲示し、誰でも受講できるように参加費を助成し勤務調整している。研修参加者は会議の席で伝達講習をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・地域のグループホームとの懇親会に参加し、情報交換、難事例、ケアプラン等について勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前にホームを見学していただき、ホームの環境を見て頂き、本人、家族と面談し、相談受付表に記録しながら時間をかけて話しを聴き、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談受付表を記入しながら家族が困っていること、不安なことに耳を傾け要望等は都度よく聴く機会を作り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・要望を聴くだけでなく、こちらでも本人の状態、家族が必要としている支援を見極め判断し、場合によっては他事業所、病院とも連携をとり「その時」必要としている支援を見極め適切な支援ができるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の経験や特技、出来る事などを活かせる場や時間を作り、共同作業（手仕事・掃除園芸）を試みている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・病院受診は、出来るだけ家族と一緒にいけるように配慮している。家族といつでも連絡がとれる体制で、本人が必要している物等届けていただいている。居室で一緒に食事をしたりお茶を飲んで頂いたり、家族との外出等、家族との時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族との外出、親類や友人の方の面会、住んでいた場所への外出を支援近所の方々と交流できるよう支援している。	利用者の親戚や知人、昔の職場の仲間などが来訪している。 職員は利用者が以前に住んでいた場所へ行ったり、近所の人との交流のための外出に付き添うほか、家族等の協力を得て墓参りや行きつけの理・美容院に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・テーブルの座席や位置、性格、趣味等を考慮して、一緒に活動したり支え合えるような支援に努めている。居室に入りがちな利用者には声掛けにて一緒に、お茶を飲んだりお話ししたりできるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も年賀状を出したり会いに行って近況を伺って必要に応じて相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・センター方式を活用し、利用者一人ひとりの希望や意向を把握している。意思疎通が困難な利用者の場合は、日々の関わりのなかで言葉や行動から汲み取り、出来るだけ意向に沿った援助が出来るように努めている。状況が変化するので、モニタリング・アセスメントを繰り返し、ユニットでカンファレンスしている。	職員はセンター方式を活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や意向を聴き、信頼関係を築きながら利用者の心にそった支援ができるように努めている。 把握した利用者の希望や意向は「気づきノート」に記録して全職員で共有している。 思いを表わせない利用者には家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前に家族に基本情報シートに記入していただき、面会に来られた時に現状報告しながら、以前の暮らしをうかがうなど把握に努めている。本人と昔話（回想療法）をしながら生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各日誌・口頭報告に加え、個人の24時間シート・アセスメントシートを製作し総合的に把握するように努めている。管理者・ケアマネも時には現場に入り現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・6ヶ月毎にケアの見直し・モニタリングを行い、ユニットミーティングにて、本人の望み・実行できる事を柱に立案している。家族面会時に情報交換をし、家族の意向を確認している。心身の状態に変化が生じた場合は、モニタリングを行い現状に即したプランに変更している。	介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握してその人らしく暮らせるように作成し、家族等の来訪時に説明して確認を得ている。 作成した介護計画は6ヶ月毎にモニタリングを行い見直すとともに、心身の状態や利用者、家族等の要望が変化した場合には現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や気づきシートを記録し、必要に応じてケアカンファレンスし、情報の共有・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当事業所だけでは、把握困難な場合があるので、他事業者と連携を取り、本人や家族の状況、その時々要望に応じて支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域のボランティアの方が、行事に参加して下さり、利用者も一緒に参加して楽しめるようにしている。民族資料館、お寺、公園等訪れ、自然や歴史に触れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・提携医の往診が月2回あり、ほかの病状により24時間の診療体制を取っている。診療所の専門外は紹介状を頂き、本人、家族の希望する病院を受診し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医となっている。 協力医療機関の医師をかかりつけ医としている利用者が他の診療科を受診する場合は、協力医療機関の担当医から紹介状をもらい適切な医療を受けられるように支援している。 受診結果は家族等に報告するとともに全職員で共有している。 月2回協力医療機関の医師による定期的な訪問診療があり、24時間の支援体制を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調変化あったときには、かかりつけ医に連絡し、指示があれば訪問看護師に来ていただき、情報や気づきを伝え適切な医療や看護が受けられる体制にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入院時は、かかりつけ医から診療情報提供書を頂き、心身の状況、看護上の問題を申し送る。入院中は病院を訪問しナース、ドクターに面談できるように取り組んでいる。退院時は、医療情報提供書、看護サマリーを頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・入所時に、重度化した場合や週末のあり方について、施設の方針を説明すると共に文書においてお渡ししている。入所時は「看取り」について考える状況に無く、重度化して初めて家族で考えられ、ドクター、施設職員をまじえて本人の意思（日頃の言動）を尊重できるような支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の対応指針を作成し契約時に利用者や家族等に説明しているが、家族等から書面で同意を得るまでには至っていない。</p> <p>利用者の終末期にあたり、利用者や家族等の意向を踏まえ、状況変化に応じた繰り返しの話し合いと家族等の合意を得ながら医師、職員が連携を図る体制を整えて事業所でできる最大の支援に取り組み、家族等から納得の得られた看取りを経験している。</p>	<p>重度化した場合や終末期の事業所の対応指針について、家族等から書面で同意を得ることが望まれる。</p> <p>看取りを経験しているので、今後にその経験が活かされることを期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>、急変や事故発生時の対応方法は、勉強会の資料やドクター指示を受け、マニュアル化して明確にして実践につなげている。消防署での救命救急講習会等も受講できるように情報を伝え計画をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・消防署指導による避難訓練を実施、新人職員は入社一ヶ月位には通報・消火訓練を行っている。食料や飲料水を備蓄して、隣接する障害者施設との協力体制を取っている。</p>	<p>消防署立会いのもと年2回避難訓練を実施している。</p> <p>利用者が参加する夜間を想定した避難訓練を実施したり、訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。</p> <p>避難訓練の結果は記録し、反省点等を話し合っ改善に努めている。</p> <p>緊急連絡網を掲示するとともに、災害時に備えて食糧や飲料水などを備蓄している。</p>	<p>利用者が参加する夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、訓練に近隣住民の参加を得て事業所の災害対策への理解を求めるなど、地域との協力体制を築いくことが望まれる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・センター方式を活用し、利用者の職歴、性格、生活環境等を把握し、一人ひとりに合わせて言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めているが、プライバシー保護マニュアルを作成したり研修を実施するまでには至っていない。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど取り扱いには十分注意をしている。	プライバシー保護マニュアルを作成して定期的に研修を実施する取り組みが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・傾聴、受容する事を心掛け、一人ひとりの思いや希望を表出し易いように言葉かけをして、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・全ての利用者とマンツーマンの対応はできないが、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、可能な限り希望に沿って支援することになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・美容室に行くのは困難でも「カラーやパーマ」を希望されたときは、出張美容室に来ていただいている。外出するときは、洋服や帽子は出来るだけ本人に選んでいただけるような言葉かけをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備・食材の下ごしらえ・下膳・食器洗いなど、出来る事は一緒に参加していただいている。職員は利用者と一緒に食事をし、介助が必要な利用者には状態にあわせた支援をしている。利用者が希望するメニューや行事食を取り入れたり、自家菜園で収穫した野菜を食材に活用し、季節感を味わったりするなど食事が楽しめる支援をしている。	職員は利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事ができるように支援をしている。 献立や食材は法人が準備したものとなっているが、利用者の希望により外食をしたり行事食にするなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしている。 利用者は職員と一緒に食事の準備や後片付け、下膳など、能力に応じた役割を担っている。 庭の自家菜園での芋掘りは利用者の楽しみとなっており、献立に収穫した季節の野菜を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量・水分量を記録し、摂取量が不足している方には、好みのゼリー・アイスなどを取り入れて工夫している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに声かけし、口腔状態に合わせ、歯ブラシを変えたり、介助したりするなど本人の力に応じた口腔ケアをしている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表に利用者の状態を記録し、一人ひとり状態にあわせてトイレ誘導をしている。必要に応じて居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。布パンツやパットを使い分け、オムツをできるだけ使用しないで済むように取り組んでいる。	職員は排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって誘導したり、利用者の様子から声かけをすることで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 必要に応じて居室にポータブルトイレを置いて失敗のないようにするとともに、布パンツやパットの利用により、できるだけおむつを使用しないで済むような支援に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・発酵食品（ヨーグルト等）や食物繊維の食品を取り入れている。毎朝の体操や中庭散歩など体を動かすことを個々に応じて行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴日や回数を決めることなく、利用者の希望に沿った入浴を支援している。個室で安全に入浴ができるようシャワーチェアを使用し、一人の職員が声かけ誘導から入浴後の水分補給まで対応し、利用者がゆっくりと入浴を楽しめるようしている。入浴を拒む利用者には多くの話題を提供したり、同性の職員で対応するなど工夫をしている。	入浴日や回数を決めずに利用者の希望にそった支援をしている。 脱衣室は浴室との温度差に配慮した温度管理をされており、利用者はシャワー椅子や入浴剤の利用で安心してゆっくりと入浴を楽しんでいる。 入浴を拒む利用者には時間を変えたり、言葉かけや対応を工夫して無理のないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個人の休息ペースを大切にし、共有スペースの中にも個別にくつろげるスペースをもうけたり工夫している。また自由に居室でベッド休養していただいている。気持ちよく休めるように布団干しはこまめに実施している。午睡される方には和室を利用したりし、安心して休んでいただけるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・向精神薬、睡眠薬、便秘薬の調整等は一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について話し合いをしながら、経過観察し、医師に報告して指示を受けながら増減して症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・これまでの仕事で培った能力を発揮できるような場（手作業、庭仕事、家事等）を作っている。毎月の行事は季節感のある企画をして楽しんで頂いたり、ドライブや買い物等で気分転換や、自分で買いたい物が買えるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・職員が付き添ったり、見守る中、事業所内の庭を自由に散歩していただいている。利用者の体調に配慮しながら、利用者の要望を聴きスーパーや薬局・理髪店にでかけられるよう付き添うほか、季節ごとの外出の機会を設けている。家族の協力を得て、お墓参りや理・美容室・自宅への外出等にでかけていただいている。	外出計画を立て、季節毎に紅葉狩りなどのドライブに出かけるほか、毎年近くの寺院へ初詣に出かけるなど、自然や生活感が体感できるよう支援に努めている。 車いすで庭の散歩ができるように遊歩道を整備したり、季節毎に楽しめる樹木や草花を植えており、利用者は職員の見守りのもと外気浴を楽しんでいる。 職員は利用者の希望にそって利用者と一緒に近くのスーパーや薬局へ買い物に出かけたり、喫茶店や軽食店へ立ち寄りたりと日常生活を楽しめるよう支援するとともに、利用者は家族等の協力を得て墓参りや理・美容院に出かけている。 市担当窓口への書類提出時に利用者が同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一緒に出掛けたときに、本人が買いたいものはできるだけ本人に支払っていただいている。自分の財布から支払う利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は利用者がかけたいときにかけていただいている。家族と話すことで安心して入眠できるという利用者は、「お休み」コールをしていただくなど家族にも協力をしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・利用者がみえる場所には季節の花を絶やさないうちに心掛けています。フローアーには季節や行事によって飾りや写真を飾っている。和室には古風なたんすを置き、落ち着いた雰囲気なかで横になったり、自由に寛ろげるように努めている。夏は中庭・窓等に朝顔やグリーンカーテンをつくり、ブラインドは和紙製で柔らかい日差しが入る工夫がされている。	共用空間は雛飾りなどの季節行事に合わせた飾り付けをしたり季節の花を生け、季節感のある環境づくりをしている。 利用者の安全に配慮して、廊下に握り易く温かい感触の木製の手すりを設けている。 食堂に隣接して畳の部屋があり、利用者は洗濯物をたたんだり横になったりして寛いで過ごしている。 温かな日差しが入る居間の窓際に長椅子を置き、利用者同士がおしゃべりをしながら居心地よく過ごせるよう配慮している。 ブラインドが和紙製のため柔らかい日差しが入るほか、夏にはアサガオなどのグリーンカーテンで日差しを遮る工夫をしている。 中庭に木製の広いデッキを設置し、居間兼食堂から自由に出入りができ、利用者同士が思い思いに過ごしている。 デッキにはスロープが設置されており、車いす使用の利用者でも自由に庭に出られるようになっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で昼寝していただいたり、共有空間のなかでも日の当たる場所に2・3脚いすをおき、日光浴をしながらくつろいでいただいたりしている。ソファの向きを工夫し、一人でくつろぐのが好きな方には、個人スペースを設けている。気のあった人同士がTVを楽しめる様にソファを配置したり、居室窓際にはベンチ、デッキにはイスがあり、いつでも利用者同士が思い思いに過ごせるようになっている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・寝具など本人の使い慣れたものを持ってきていただき、家具類ももってこられる方にはもってきていただいている。居室には写真や絵を飾り好みのイスを置くなど居心地良く暮らせるよう工夫している。夫婦で入居されているかたには、寝室と居間に分けるなど、自宅にいた時のように生活していただいている	居室にはベッドやタンスのほか洗面台が備え付けられており、利用者の自立した生活を支援している。 管理者は家族等と相談しながら利用者の馴染みの家具を持ち込んでもらったり絵や写真を飾り、安心して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・出来る事やわかることは（掃除・料理の下ごしらえ・洗濯干し・入浴・トイレ等）安全にできるよう配慮しながら支援している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 オークスひたちなか

作成日 平成24年7月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	プライバシーは介助や声掛けにて十分配慮しているが、オムツのおき場所などは、みえない所におくなどの決まりを文章化していない。	利用者様の人間として尊厳が重視され、気持ちよく生活できるように全職員が認識を持つ	月1回の全体会議において職員が現在サービスを提供するなかで具体的にプライバシー保護の項目を出して貰い統一して取り組めるよう文章化する。	3ヶ月
2	35	地域環境、地域性もあり近隣住民の参加が得られていない。	近隣住民の参加を得て災害対策への理解をして頂き、地域との協力体制を築く。	運営推進会議において、協力体制の必要性を自治会長、民生委員の方に理解して頂き、施設の避難訓練に参加して頂き近隣住民の参加が得られるよう取り組んでいく。	12カ月
3	10	施設として無記名のアンケートや市の介護相談員の受け入れを実施していない。	一年に1回のアンケートを実施する。相談員の受入る方向で検討する	無記名の〇×方式で答え易くする。 1年に1回実施(10月頃) 市の説明会(8月)にて相談員の受け入れについて具体的に話しを聞き検討する	3ヶ月
4	33	重度化し看取りの必要が生じた場合等における対応指針、看取り介護についての同意書はあるが生かされていない。	ご本人ご家族の意思確認、医療体制、職員体制が整った時随時判断しながら同意書を頂く。	目標と同じ	随時
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。